

平成 29 年度 事業計画書

(自 平成 29 年 4 月 1 日 至 平成 30 年 3 月 31 日)

公益財団法人つなぐいのち基金

<目次>

1. 基本方針	3
2. 公益目的事業の事業計画/事業展開	4
■公益事業目的	4
■事業概要	4
助成事業	4
■平成29年度計画主旨	4
■平成29年度の目標値	4
■平成29年度計画主旨	5
■事業（想定）スケジュール	5
3. リソースの調達について	6
■平成29年度計画主旨	6
【財務的基盤のため】	6
■賛助会員	6
■寄付	7
【人的・技術的リソース基盤のため】	8
■支援に向けた広報・啓発活動について	8
4. 管理運営体制	10
■組織体制強化の必要性	10
■財団全体のガバナンスのための評議員、監事の拡充	10
■選考委員会 選考委員の拡充	11
■ガバナンス・フィージビリティ確保、その根拠規定、マニュアル等制作物について	12
■運営体制	12

1. 基本方針

■事業の趣旨 『高齢者と子どもなどの多世代を「つなぐ」ことのできる、地域を限らないコミュニティ財団』

本事業は、助成事業を通じて、社会的ハンデを抱える子どもの福祉の増進、心身の健全な育成、自立の支援、世代間の資源循環を促進します。具体的には、当財団のボランティア活動等への参加による高齢者の活性化と生きがい創出などにより世代間相互支援の推進し、助成金交付による金銭的支援と同時にボランティアによる時間やサービスによる非金銭的支援を組み合わせ「つなぐ」仕組みをつくることで、相乗効果を発揮させ、多世代間での様々なリソースの円滑な循環と相互扶助のかたちを構築の一助となり、より良い社会を次の世代につなぐことを目的とします。

超高齢社会である我が国の高齢者は経済面だけでなく、経験、スキル、時間や暖かな気持ちなど、本当に多くのリソースを有していますが、消費や金融資産の継承では充足できない生きがいや幸福感が欠如し、また、引きこもりや孤立が進んでいます。助成事業は、多くの高齢者の力などの十分には機能していない「ソーシャルなリソース」を、フェアなスタートラインに立つことができない子どもたちとその支援活動に「つなぐ」こと、そして、背景となる知識を有しない個人では比較的難しい「応援する対象を選ぶ」お手伝いをするこでのコミュニティ参加の推進を意図しています。

一方、代表的な指標として「相対的な貧困率」の上昇が示す通り、格差が進み、社会的にハンデを抱えながら次代を担う責務を負っていく子どもたちは、OECD 諸国と比較しても特筆すべき厳しい状況に置かれています

また、社会的成功や自立には非認知能力の獲得が重要であることが分かってきておりますが、ハンデを抱える子どもたちは、この獲得の機会も著しく不足しているのが現状です。

とともに、このように、一見すると支援をされる側であると思われていた対象の方々同士が、お互いに不足しているものを補い合う相互扶助の仕組みを構築していくことで、社会の効率を高め、次世代に負の遺産を押し付けない社会づくりに寄与することを目指します。

《平成 29 年度の事業計画における目標》

公益移行認定より 3 年近くが経過し、スタートアップ公益法人から脱却していくため財務基盤の確立を最優先事項とした組織全体の基盤強化を進めていきます。

供養業界支援終了に合わせ高齢者から次世代への資源循環と相互扶助関係の構築の本格的取組み元年とします

- ◆公財団法人として、必要となる財務基盤の強化を最優先とする。
- ◆公益法人として社会から信頼されるための事業のフィージビリティとガバナンスを確保する。
- ◆平成 30 年度以降の事業展開も視野に実績を積み、公益の増進に寄与する

■助成事業スケジュール想定と考え方 (年度開始時は認定後である前提)

2017 年度 1Q	ガバナンス強化 (評議員、選考委員の強化による新組織体制へ移行) フィージビリティ確保 (マニュアル・規程・ガイドラインの整備、募集ツール作成 等) マイ基金助成 募集の準備
2017 年度 2Q	マイ基金助成 募集開始 (スモールスタートによる実績づくりと不具合点の改善) マイ基金助成の選考 提供を開始 助成金の募集を開始 ファンドレイジング強化 (収益基盤づくり)
2017 年度 3Q	助成金支給総額の決定、選考、支給の実施 年間の総括による助成事業の運営状況などの分析と改善案の策定
2017 年度 4Q	次年度の事業計画に反映
2017 年度以降	1 年の全期間を前提として通常的な事業を実施する

2. 公益目的事業の事業計画/事業展開

■公益事業目的

社会的ハンデを抱える子どもたちを支援する施設・団体を通じた金銭的および非金銭的支援による助成事業。

■事業概要

具体的には、高齢者をはじめとした一般市民や企業等の社会貢献への志を尊重し最大限に生かすため

- ・民間公益活動を推進するための寄付や冠基金等により必要な資金等の資源を募り確保
- ・社会的課題を啓発するためのイベント・コンテンツの提供・広報活動
- ・ボランティア活動等サポートでの高齢者の活性化と生きがい創出による世代間相互支援の推進

などを実施し、家庭での虐待や貧困、親との死別、重度の病気や障害のため闘病生活など、社会的養護を必要とする0歳から20歳の子どもたち(自立を控えた20歳超の若者を含む)を養護、支援する施設、団体に対して、助成金支給などの金銭的支援とともに人的リソースやスキルを活用した非金銭的支援を組み合わせる助成事業を行います。

助成事業

児童福祉を主目的とした事業、活動、プロジェクト等を対象とし、法人、団体、施設へ助成金を支給します。

■平成29年度計画主旨

既存事業である助成金支給については、ファンドレイジング強化と「マイ基金」による寄付金により、当法人において過去最高額の助成金を支給します。

■事業(想定)スケジュール

<通常の年1回の助成：つなぐ助成金>

- 2017.11 公募準備 (WEB 中心)
- 2017.12 賛助会費の収益状況、および「マイ基金」からの支給額の集計
理事会にて助成金総額を決定
- 2018.01 助成金 公募
- 2018.02 選定委員会 開催(事前に基礎調査選考実施)
契約書を含む助成金支給申請書類の受領後、助成金支給 実施
- 2018.03 助成金受領書 回収
- 2018.04~ 助成対象事業の進捗状況と必要性に応じて、当財団ボランティアによる支援を実施
取材を通じた広報と実績確認
- 2018.12 進捗状況の確認
- 2019.02 終了確認 (未了のものは期間延長等の変更申請書を取得)
- 2019.03 実績報告、収支報告を取得、確認後助成終了

■平成29年度の目標値

<通常の年1回の助成：つなぐ助成金>

助成金支給総額 150万円 (助成額 10~30万円 × 4~7団体)

※ 内、50万円はマイ基金を原資とする。

スタートアップのフェーズからの脱却という目標に対して、「マイ基金」による財源増も含め、助成金額は、当初の2年の総額40万円、昨年度の総額100万円から、公益移行認定時の助成額となる総額150万円によろやく到達いたします。単年度の助成金支給先も過去最高を目標としていきます。

【費用】

助成先の選考に関わる費用、および助成金支給先へのボランティアによる事業の推進支援を行うための必要となる費用を予算として計上しています。

選考・調査費	50,000 円	通信運搬費	12,000 円	旅費交通費	72,000 円
ボランティア保険	56,000 円	消耗品	15,000 円	名刺代など	13,500 円
					計 156,500 円

<マイ基金(冠基金)について>

乳児院や児童養護施設やグループホーム等の社会的養護施設、又は、社会的養護設に入居する児童および重度の病気や障害で治療をする児童を支援するために活動する団体に助成するため、ならびに当法人および仕組みを運営するため資金として、寄付金を個別の基金という形で募集、受領し、管理運営を行います。

■平成29年度計画主旨

実際に募集・運用することで事前調査とのニーズや実数との乖離がないか慎重に検討していきながら、地域コミュニティではなく世代間を意識した「マイ基金」の認知向上と定着化にむけ運営する。

■事業(想定)スケジュール

2017.04	助成事業実施規程 改定
2017.05	変更届出の提出
2017.06	マニュアル・ガイドライン関連 整備完了
2017.07	基金設定依頼書、寄付申込書 等 整備完了
2017.08	募集ツール 入稿データ完成、印刷完了
2017.09	マイ基金 募集開始
2017.10	応募者に対して個別説明会、設定相談
2017.12	理事会での承認後に基金設定
2018.02	設定基金からの助成選考 (助成事業の選考フロー)
2018.02	助成金支給の実施 (同 上)

※ 基金設定者の要件により、上記以外のスケジュールで選考会を開催し支給実施。

(2018.04 各基金の運営状況報告、公聴の機会の設定) ,

【平成 29 年度目標総額】

1,650,000 円 (永続年金 80 万円、期間年金 85 万円 うち 50 万円を一般正味財産への振替)

【費用】

事業初年度としてマイ基金の募集・管理のためにサイト制作、印刷物などの費用を予算計上しました。

委託費(WEB サイト制作費)	300,000 円	委託費(帳票整備等)	50,000 円
印刷製本費(デザイン料含む)	40,000 円	旅費交通費	30,000 円

計 420,000 円

3.リソースの調達について

■平成29年度計画主旨

平成26、27、28年度は、リソースを確保の上で、本格的な賛助会員獲得を計画しておりましたが、オフィシャルサポート企業の新興市場への上場および市場替えにより人的、経済的リソースの支援の終了についての再検討の打診がありました。その結果として、オフィシャルサポートの終了、ライフエンディング業界法人向けの賛助会員会費を前提として財務基盤からの変更を余儀なくされました。

このような状況で急務である、財務基盤の確立を最優先事項として計画をいたしました。

まずは、平成29年度から5年間は、これまでの取組みをさらに促進するとともに、元オフィシャルサポートの経営者でもある当財団理事からの株式上場益の個人寄付を総額で2000万円を確保しています。

次に、これまでオフィシャルサポート企業を配慮し活動を控えていた一般企業への支援依頼も、供養業界に縛られることなく、シニア、子ども向けサービス・商品を提供する企業を中心に推進することができるようになりました。

また、Webクリック募金サービス、国際的インターネット企業の無償WEB広告などの支援を利用し、ご高齢者を中心とした一般個人からの寄付を募り、志ある方々の支援により小さな一歩ながら実績につながってきています。香典寄付など供養関連寄付も成果が出始めました。さらに、最新のファンドレイジング手法を活動した支援金の獲得も強化していきます。

さらに、税額控除証明法人として「マイ基金」による資金調達の開始により、継続的な推進により経年にて事業規模、助成額の大幅アップを計画しております。

同時に、ライフエンディング関連業界についても個別に働き掛けを強化し、WEBでの供養に関する相談受付段階から寄付を前提とした供養プランをサプライチェーンから構築することを目指します。

【財務的基盤のため】

■賛助会員

供養業界を対象とした募集から、広く一般の企業、個人と対象とした募集に切り替えます。合わせて、会員制度を見直し、新たに賛助準会員の設置、法人と個人の会費設定の変更などにより、より多くの方にご加入いただきやすい仕組みといたしました。

【平成29年度目標値】 合計 30万円

会員種別	獲得数	会費収入目標額
法人 旧賛助会員	2 口	年会費 10,000 円 × 2 社 = 20,000 円
法人 新賛助会員	5 口	年会費 30,000 円 × 5 社 = 150,000 円
法人 賛助準会員	10 口	年会費 3,000 円 × 10 社 = 30,000 円
個人 特別賛助会員	半期 1 口	年会費 50,000 円 × 0.5 名 = 25,000 円
個人 新賛助会員	5 口	年会費 6,000 円 × 5 名 = 30,000 円
個人 賛助準会員 0	15 口	年会費 3,000 円 × 15 名 = 45,000 円

■寄付

【平成 29 年度目標総額】 695 万円

賛助会員、マンスリーサポーター、マイ基金の一般正味財産への振替額を含む
内訳は収支予算書の通り

(※ うち、200 万円は、2023 年の設立 10 年記念行事を用途として指定正味財産へ)

◇寄附金の募集方法

法人賛助会員、当法人の役員、スタッフ、ボランティア、協力者、支援者、および DM、メール、SNS、などインターネット等の媒体を活用し、本法人の理念(児童支援)の賛同を募り、寄付金、支援金の募集を行う。

＜募集対象＞

1. 高齢者を中心にした財団活動に共感する個人
2. 少子社会、超高齢社会において様々な取り組みをしている企業、団体
3. ライフエンディング業界
4. 理事、アドバイザー、顧問等の関係者
5. 啓発、広報活動、税額控除証明法人であることにより、次の方法で寄附金の募集を図る。

◇平成 29 年度 寄付についての個別詳解

＜マイ基金＞

【基金種類別の設定額】

基金種類	設定総額	基金設定数
①永続基金	2,800,000 円	200 万円×1 50 万円×1 10 万円×3
②期間基金	850,000 円	50 万円×1 10 万円×2 5 万円×3
(上記のうち、供養関連基金)	(200,000 円)	(10 万円×1 5 万円×2)

マイ基金 設定目標値 合計 3,650,000 万円

(指定正味財産から 一般正味財産 受取寄付金への振替額 500,000 円)

管理収益 設定費用 50,000 円

(内訳)	通常	スタート割引額
初期設定費	3,650,000 円×2% = 73,000 円	→ 21,500 円
運営管理費	3,150,000 円×3% = 94,500 円	→ 16,500 円
助成実施費	500,000 円×5% = 25,000 円	→ 12,000 円

上記メニューによる、マイ基金、賛助会員会費、寄付金、企業やWEBを通じた一般市民からの支援金、委託事業の受託費、および公益目的事業についての収益などのファンドレイジング全般による収入を財源

とする。

<マンスリーサポーター>

賛助会員とはならない方で、かつ、毎月の寄附を希望する方を主に財団HPにて募る。

1口 100 円から決済も可能となるスキームも導入し、本事業年度に大幅増の新規獲得を目指す。

上期: 単月 10,000 円×6 か月 下期: 15,000 円×6 か月 合計 15 万円 の支援を目標とします。

<理事による寄付>

財務基盤強化のため、通常年度 180 万円(下方を参照)のところ、今年度は 500 万円の寄付を受領します。但し、うち 200 万円は 2023 年の設立 10 年記念行事を用途として指定正味財産とします。

上記により、平成29年末の正味財産残高は 1000 万円とする計画としています。

◇参照: 次年度以降の収益目標 年間 500 万円以上を確保する

<収益目標内訳>

1. 賛助会員 会費収入 30 万円
2. 個人寄付 60 万円(マンスリーサポーター含む)
3. マイ基金(冠基金) 100 万円～
4. 法人寄付 100 万円～ (役員等の関連企業含む)
5. 公益目的事業の**広報や啓蒙活動を通じた寄付** 20 万円
6. 理事等による寄付 180 万円
7. その他支援金 10 万円～

※3.4.5.7については変更初年度目標値。今後更なる拡充を図っていく。

【人的・技術的リソース基盤のため】

ボランティアによる支援を希望はしているが活用に不慣れな助成対象の児童養護施設等の社会養護施設や団体に対して、当法人にて募集した高齢者を中心としたボランティアがサポートを行う。

- ・児童養護施設等でのボランティアに関するニーズと、ボランティアを希望するご高齢者が持つ経験、スキルやキャラクターをマッチングさせ、シニアの活躍の場を提供します。
- ・児童養護施設等の近隣に住むシニアボランティアが集まっていくことで、子どもたちやご高齢者同士をサポートする地域コミュニティとして機能させていくことを目指していきます。

■支援に向けた広報・啓発活動について

【広報活動について】

社会的課題や将来推計についてのデータやニュースを、学生やシニアのボランティアを中心に誰にでも分かりやすくまとめ、専用WEBサイト、SNS やチラシ、冊子などで発信していくことで、当団体をはじめ多くの活動を広報し、支援の必要性を伝えていきます。

定期活動報告書(年 2 回)や会報(随時)、リーフレットなどの発行も予定しています。

【運営・開催予定の広報活動リスト】

- ① これまでの対象事業 助成交付先の代表による 事業報告会（10月頃を予定）
- ② 子どもと高齢者に関わる課題等をテーマとしたフューチャーセッションの開催
- ③ 社会課題啓発とボランティアのコミュニティサイト(仮称「これからをつなぐ協働研究室」)の開設／運営
- ④ 広報活動を兼ねた ボランティア説明会の開催（個別説明会を含め 年20回程度開催予定）
- ⑤ 広報活動を兼ねた「マイ基金」説明会の開催（個別説明会を含め 年5回程度開催予定）

【寄付・支援金についての目標額】 140,000円

下記の収益を計画しております。

前項目の① 寄付金・支援金として 60,000円

前項目の② 寄付金・支援金として 40,000円

※講師謝金、会場費、軽微な飲食の準備が必要な場合は実費用費相当額を徴収する場合があります。

前項目の③ サイト運営の寄付金・支援金として 40,000円

サイトメンバー証(賛助会員 個人準会員)を兼ねた名刺増刷費として 10,000円

【参加者の募集方法】

当法人のホームページをはじめ、日本財団や社会福祉協議会などの各中間支援組織が運営する情報掲載サイトやメーリングリスト、および無償掲載雑誌(例「公募ガイド」など)を通じて公示・募集する。

4. 管理運営体制

■組織体制強化の必要性

平成29年度目標である、公益法人として社会から信頼されるための事業のフィージビリティを確保、公益目的事業における着実な実績、新たな公益事業の領域の拡大と改善を申請と実行をするために当法人の組織体制を強化します。

特に、「マイ基金」の運営を開始するにあたり、民間公益活動の期待を寄せてくださった支援者の責任を果たし強固なガバナンスと確実なフィージビリティを確保し、より信頼される公益財団法人になる必要があります。

そのために、最高議決機関である評議員会の評議員の拡充、各業務執行分野においてより高い専門性と経験を有する理事の拡充、助成先をこれまで以上に適正に選定するための選考委員の拡充、という3つの組織の拡充が求められていると認識しております。

■財団全体のガバナンスのための評議員、監事の拡充

既述の不調性に基づき、平成29年度の中の各組織の役職者の拡充を下記の通り行いました。

【評議員】 評議員会を一新し、平成28年度末定例評議員会決議にて下記の6名新体制へ移行しております。

【監事】 税理士1名体制から、公認会計士、税理士の2名体制といたします。

【理事】 任期満了に伴い、代表理事を含め4名を再任、2名の信任理事を迎えました。

	役職名	氏名	勤務先等	常任理事	
評議員	1	評議員	福岡武彦	三聖トラスト会計事務所 代表・税理士 前・公益財団法人つなぐいのち基金 監事	
	2	評議員	立木順子	則武化学株式会社 監査役	
	3	評議員	長谷川正人	社会福祉法人鞍手ゆたか福祉会 理事長 福岡教育大学非常勤講師/鞍手町社会福祉協議会評議員/鞍手町しょうがい者福祉計画策定委員会委員 全国専攻科(特別ニーズ教育)研究会副会長/社会福祉士/福祉サービス 第三者評価調査員 『知的障害者の大学創造への道〜ゆたか』『カレッジ』グループの挑戦』著者	
	4	評議員	角田大憲	中村・角田・松本法律事務所 パートナー弁護士 元司法試験審査委員及び元司法試験予備試験審査委員	
	5	評議員	小澤 浩明	東洋大学 社会学部 社会学科 福祉社会システム専攻 教授 『格差社会における家族の生活・子育て・教育と新たな困難〜低所得者集住地域の実態調査から〜』著者 一橋大学大学院 社会学研究科 社会問題 社会政策 卒	
	6	評議員	角田弘子	日本ウェルネススポーツ大学准教授 専門 社会調査、医学統計 統計数理研究所客員准教授/順天堂大学医学部衛生学講座協力研究員 『東アジア価値観調査データの科学』(勉誠出版) 著者 『『ソーシャルキャピタルで解く社会的孤立』重層的予防策とソーシャルビジネスへの展望』(ミネルヴァ書房) 共著	
理事	1	代表理事	鶴居由記衣	公益財団法人つなぐいのち基金 代表理事 有限会社ouiii 代表取締役 『知的障害者の大学創造への道』発起人	○
	2	副理事長	清水祐幸	株式会社鎌倉新書 代表取締役 社会福祉法人聖友ホーム 評議員	○
	3	常務理事	豊住吉弘	公益財団法人つなぐいのち基金 常務理事 兼 事務局長 特定非営利活動法人NPOサポートセンター アンシエイト・フェロー NPO(設立準備)法人 Link-Age Project 共同代表/Future-LinkAge コンソーシアム 事務局 兼 コーディネーター NPO Socio Curren representative/一般社団法人東京筋萎縮症協会 賛助会員/(元)学生赤十字奉仕団	○
	4	理事	下村朱美	株式会社ミス・パリ 代表取締役/株式会社シェイプアップハウス 代表取締役 内閣府男女共同参画推進連携会議 議員 一般社団法人東京ニュービジネス協議会 会長/公益社団法人日本ニュービジネス協議会連合会 福会長 公益財団法人日本ユースリーダー協会 理事/一般財団法人ソフトウェア・試験センター 理事長	
	5	理事	村尾昌美	ヒーリングフォトグラファー 村尾スタジオ主催 フォトコミュニケーション協会 代表	
	6	理事	篠原一廣	篠原総合法律事務所 代表弁護士 日本交通法学会会員/日本賠償科学会会員 早稲田大学大学院法務研究科アカデミック・アドバイザー 東京弁護士会常議員/日本弁護士連合会代議員/東京弁護士会 遺言信託部会/東京弁護士会紛争調停委員	
監事	2	監事	安藤算浩	監査法人ナカチ 代表社員・公認会計士 株式会社 財務戦略ナカチ 代表取締役/株式会社 経営管理ナカチ 執行役員	
	1	監事	増田美子	前・公益財団法人つなぐいのち基金 常任理事 中田公認会計士事務所・税理士	

上記に加え、平成29年度末に、業務執行および広報強化のための理事の拡充を検討しております。

■選考委員会 選考委員の拡充

下記の新選考委員会に体制に加え、マイ基金の選考会に向け拡充を図り 10~15 名体制とすることを予定しております。

選考委員長 寺山 智雄

公益財団法人ヒューマニン財団 代表理事
 NPO 法人 VisionaryTerras 日本 代表理事
 株式会社山クリエイション 代表取締役
 元 あしなが学生募金事務局 局長
 元 東京都議会議員(世田谷選挙区)
 元 公益財団法人日本盲導犬協会 参与・常任理事、専務理事

副委員長 鶴居 由記衣

公益財団法人つなぐいのち基金 代表理事
 有限会社 ouiui 代表取締役
 人財教育コンサルタント
 AICI 国際イメージコンサルタント協会認定イメージコンサルタント
 日本色彩学会正会員(AFT1 級、ABP1 級)
 『知的障害者の大学創造への道』発起人

選考委員 池本 卯典

医学博士。博士(法学・CPU)
 日本獣医生命科学大学 名誉学長
 自治医科大学 名誉教授
 日本医科大学 顧問
 元 獣医師会獣医事審議会 委員
 元 日本比較臨床医学会 理事長
 元 私立獣医科大学協議会理事長
 エルウイン・フォン・ベルツ賞 受賞

選考委員 清水 祐孝

公益財団法人つなぐいのち基金 副理事長
 株式会社鎌倉新書 代表取締役社長
 慶応義塾大学卒業

選考委員 山中 資久

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 経営戦略部 アソシエイト
 元 NPO 法人 ETIC. ソーシャルイノベーション事業部
 ※西武信金、日本財団、ETIC.によるソーシャルビジネス向け融資「CHANGE」担当
 ※東京都女性・若者・シニア創業サポート(融資) 地域創業アドバイザー
 ※東京都地域中小企業応援ファンド助成事業 応援ナビゲーター
 ※東北の復興支援プロジェクト 右腕プログラム 事務局
 元 人材広告系の大手代理店 マーケティング、新規事業担当

選考委員 田邊 健史

特定非営利活動法人 NPO サポートセンター 事務局次長
 東京都文京区「ファミコム」(地域活動拠点)活動支援コーディネーター
 東京都中央区「協働ステーション中央」(協働推進拠点)チーフコーディネーター
 千葉県松戸市「まっぴど市民活動センター」アドバイザー兼ボードメンバー
 一般社団法人 Work Design Lab 理事

選考委員 豊住吉弘 (調査選考担当 議長 選定委員会事務局)

公益財団法人つなぐいのち基金 常務理事 兼 事務局次長 (業務執行理事)
 NPO Socio Current representative
 特定非営利活動法人NPOサポートセンター アソシエイト・フェロー
 Future Link-Age コンソーシアム事務局 兼 コーディネーター
 一般社団法人東京筋委縮症協会 賛助会員
 (元)学生赤十字奉仕団 (現 クローバー)

公益財団法人つなぐいのち基金 助成関連事業 選考委員会 運営体制 概略図

＜助成金支給事業選考＞

＜サービス交流助成/マイ基金助成 選考＞

助成金選定委員会

助成事務局

助成選考会

助成選考会

助成選考会

年1回

次年度事業を

3月に決定

座長:副選考委員長
 3~5名で構成
 (委員・ボランティアスタッフ)

同左

年間通じて
 助成設定毎に
 選考会を組成

基礎調査選考 Team

■ガバナンス・フィージビリティ確保、その根拠規定、マニュアル等制作物について

下記文書を新たに作成します。また、既存の規程類も必要に応じ修正いたします。

『公益目的事業運営規定』、『資産運用規定』

マイ基金事業

『マイ基金設定申込書(チェックシート含む)』、『マイ基金運営管理ガイドライン/マニュアル』

■運営体制

① スタッフの拡充

☑ボランティア

学生、社会人プロボノ、リタイア準備中のシニア予備軍、ご高齢者、それぞれをWEBの募集を中心に推進し、事業の実施に向けて体制づくりを行っていきます。

【目標値】

当法人サポートボランティアスタッフ数 30名（学生10名 社会人5名 シニア15名）

☑事務負荷の軽減 業務委託

現在、無償役員にて運営されている運營業務、事務の一部を業務委託していきます。

【想定予算】

WEB関連の運営（サイト更新、SNS運営、コンテンツ制作、LISTING管理等）、連絡庶務業務

月額 45,000円 × 12か月 = 540,000円

経理業務の一部、ツール制作業務など

時給 1000円 × 月間10時間 × 12か月 = 120,000円

② 運営組織の変更

☑常任理事会の拡充

平成27年度までは「業務運営ミーティング」として計画策定や業務執行を行っておりましたが、平成28年度から明確な組織として常任理事会を設置し、意志決定機関である理事会と計画策定・業務執行機関である常任理事会と役割を分けることで、当法人の運営能力の向上をはかりました。

平成29年度は、常任理事会のメンバーの拡充と、有識者、支援者、専門家等にて構成されるアドバザリーボードとしての複数名にアドバイザー、メンター、フェローなどを依頼する予定です

以上